

地域文化の真正性と地域学習に関する実践研究 -新玉小学校を対象とした現代の『散策集』編纂の取り組み-

愛媛大学大学院 学生会員 ○柳原捷吾 愛媛大学 正会員 羽鳥剛史

1. 背景・目的

近年、我が国では、全国各地で発生している地方の衰退が重要な問題となっている。その主な要因として、都心部への若者の流出が挙げられ、対策として若者や女性の雇用・育児支援等が実施されているが、併せて住民の地域への愛着や誇りを育むことも重要であると考えられる。地域への愛着や誇りを育む上で、幼少期から地域の文化や風土を学ぶことが重要であると考えられる。しかし、地域文化に関わる学校教育においては、座学中心になりがちであり、授業内容の定着や実際のまちづくり活動への参加を促す効果が期待される「子供の主体性」を活かした授業¹⁾や「実際の地域やまちづくりとの連携」を組み込んだ授業²⁾はあまり多くない。松山市の文化の一つである俳句に関する教育においても、対象児童の学年に合わせた副読本を作成するなど、教育に対して熱心ではあるものの、学校教育においては社会科や国語での座学が中心となっている。

本研究では、地域文化の振興や継承において、観光社会学や観光地理学の分野で重要性が指摘されている「オーセンティシティ (authenticity)」という概念に着目した。「オーセンティシティ」とは、真正性と訳され、文化的資源が本物であると認識される特性のことである。そして、このオーセンティシティを確保する社会的プロセスの一つとして、「ホット・オーセンティケーション (hot authentication)」が挙げられる。「ホット・オーセンティケーション」とは、人々の信念に基づき、「文化的資源 (モノ、イベント、場所) のオーセンティシティを創出・維持・補強する主観的・反復的・非公式であるパフォーマティブ (遂行的) なプロセス」³⁾のことを指している。そのため、ホット・オーセンティケーションを促進することによって、住民の地域への愛着や誇りの醸成が期待される。ホット・オーセンティケーションを促進するための指針として「ホット・オーセンティケーションのパフォーマティブ構造 (図1.参照)」が挙げられている⁴⁾。

本研究は、学校教育において、ホット・オーセンティケーションのパフォーマティブ構造を取り入れた地域学習プログラムを実施し、地域文化の真正性と地域学習との関連について実践的に検討することを目的とした。この目的のもと、松山市内の小学校の総合的な学習の時間の一環として、正岡子規が松山市内を散策した際の紀行句集である『散策集』を基にした地域学習プログラムを実施し、本プログラムによる学びのプロセスについて検証を行った。

2. プログラム概要

本研究では、松山市立新玉小学校の5年生92名を対象に、2016年9月29日から同年11月13日の約1カ月間、同小学校の総合的な学習の一環として、「正岡子規『散策集』をたどるまちあるき」プログラムを作成・実施した。また、プログラムの実施に伴い、まちあるきのテキスト (図2.参照) を作成した。本プログラムで実施した授業の流れ (表1.参照) は、子規の功績や略歴、子規の作った俳句について紹介を行った (①ガイダンス) 後に、子規の散策の道のりをたどりつつ、子規の暮らしや子規が俳句を作った場所、まちの歴史などを学ぶまちあるきを実施した (②第一回まちあるき)。そして、まちあるきで得た気付きや学びを他の児童と共有してもらった (③まちあるきの気付き

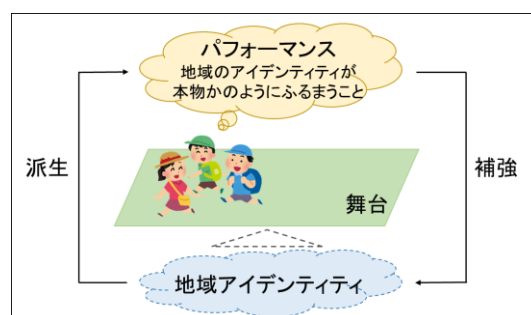


図1. ホット・オーセンティケーションのパフォーマティブ構造



図2. 作成したテキスト

のポスター発表会) 後, 子規の道のりをたどりつつ俳句を作成するまちあるきを実施(④第二回まちあるき)し, 児童が作った俳句を発表・鑑賞した(⑤『平成こども散策集』発表会)。これらの授業実施後, 地区文化祭や子規に関する博物館において, 児童の作った俳句の展示を行った。また, 本プログラムの効果を検証するため, 各授業後に授業の感想を自由記述形式で記述してもらった他, 児童の記入したワークシートを回収した。

3. プログラム実施結果

児童の学びを授業の感想やワークシートから検証した結果, 以下のような学びのプロセス(図3.参照)が確認された。

子規に関する基礎知識や子規の俳句を学ぶことにより子規に関する学習意欲を得た(①ガイダンス)上で, 子規の気持ちや当時の町並みを想像しつつ散策することにより, 子規の散策や街並みの変化を知り, 地域をより理解し, 子規やまちへの関心が芽生えていることが確認された(②第一回まちあるき)。そして, まちあるきで得た気付きや知識を他者と共有することで, 地域への理解がより深まり, 地域と自身とのつながりをより感じていることが確認された。また, 地域とのつながりが芽生えることにより, 再び子規のように振る舞うことへの意欲を得ていることが確認された(③まちあるきの気付きのポスター発表会)。さらに, 子規の気持ちや当時の町並みを想像しつつ散策し俳句を作ることにより, 子規やまちへの愛着が芽生え, 子規やまちと自身とのつながりが強くなる可能性が確認された(④第二回まちあるき)。そして, 他の児童の俳句を鑑賞することで, 自身の気付きや学びを補足し, 地域と自身とのつながりがより強化される可能性が確認された(⑤『平成こども散策集』発表会)。最後に, 子規やまちに関する学習意欲が高まることに加え, 地域の文化を継承することへの意欲を得ていることが確認された。

4. 結論

以上の結果から, 本プログラムの実施により児童の地域や地域文化に対する愛着や誇りの醸成を促す可能性が示唆された。さらに, 「ホット・オーセンティケーションのパフォーマティブ構造」が成り立つ可能性が示唆された。ただし, 今後, 本プログラムを本格的に実施していく上では, プログラム実施のための支援の充実や, 学びのプロセスから離脱しかけている児童のサポート方法の検討など, 課題も残されており, 今後, より効果的な地域学習プログラムの検証・構築を行うことが重要である。

5. 参考文献

- 1) 柳沼葉子, 市川健太, 岩倉成志, 野中康弘(2013)「日本橋常盤小学校における「まちづくり学習」の授業効果の持続性—授業実施5年後のパネル調査—」, 土木学会論文集H(教育), Vol.69, No.1, pp.9-20
- 2) 篠部裕(2005)「地域社会と連携した小学校でのまちづくり学習に関する研究 公園計画を題材としたPBL方式のまちづくり学習の実践と評価」, 都市計画論文集, No.40-3, pp.499-504
- 3) E. Cohen, S.A. Cohen, (2012) "Authentication: Hot and cool", Annals of Tourism Research, Vol39, Issue3, pp.1295-1314
- 4) Hatori Tsuyoshi (2016) "Regional Performance, Stage Setting and Authentication in Heritage Tourism", <https://institutodehistoriadaarte.files.wordpress.com/2016/08/hatori.pdf>, (2017/03/09 確認)

表1. 授業の流れ

9/29	①ガイダンス
10/5	②第一回まちあるき
10/12	③まちあるきの気付きのポスター発表会
10/17	④第二回まちあるき
10/20	⑤『平成こども散策集』発表会
11/13	地区文化祭での展示
12/24-1/10	子規に関する博物館での展示



写真1. まちあるきの様子

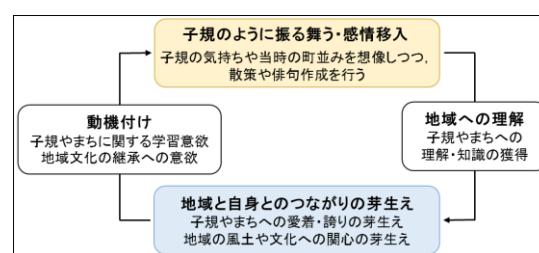


図3. 学びのプロセス図